

津山侯特ニ其刻費ヲ賜ヒ之ヲ世ニ公ニス、是ニ至テ、世人西洋亦タ内科ノ術アルコトヲ知ル、
略○中

先是文政六年紀元二千四百八十三年八月、埃斯太利國ノ人シイポルト、和蘭醫官トナリテ長崎ニ來ル、醫術頗ル精妙ト稱ス、當時笈ヲ負ヒ西游スル者、皆就キテ其學術ヲ受ク、文政十二年紀元二千四百八十九年シイポルト、日本地圖刀劍等ノ雜品ヲ密ニ購贖シテ、本國ニ輸ルノ故ヲ以テ、和蘭ニ放歸シ、再來ヲ禁ゼリ、後文久ノ頃再ビ橫濱ニ來タレリ然レドモ蘭醫陸續來航シテ、其跡ヲ絶タザルヲ以テ、爾來醫術ヲ學ブ者ハ、必ズ長崎ニ遊ンデ蘭人ノ傳ヲ受ク、

〔皇國醫事沿革小史後編第六期〕弘化嘉永ノ際紀元二千五百一十年代ニ至リテ、和蘭學益々隆盛ノ域ニ入り、加フルニ英、獨、佛等ノ諸學漸次開闢ノ途ニ就ケリ、○中略洋醫ノ學精ニシテ術巧ナルヲ喜ビ、之ヲ信ズルモノ少ナカラズ、漸盛ノ勢アリ、彼輩之ヲ嫉ミ、官醫多紀安叔樂真院法印、辻元崧菴爲春院法印等ト相計リ、時ノ執政阿部正弘伊勢守ニ強請シテ、左ノ禁令ヲ布告シ、幕府ノ醫官ヲシテ、西洋醫術ヲ施ス事ヲ禁ゼシメタリ、時ニ嘉永二年紀元二千五百一十八年ナリトス、

一 近來蘭學醫師追々相増世上にても信用いたし候もの多有之哉に相聞候、右者風土も違候事に付、御醫師中者、蘭方相用候義御制禁被仰出候旨、得其意堅く可被相守候、
但し外科眼科等、外治相用候分は、蘭方參用致候ても不苦候、

己酉三月十五日

阿部伊勢守

一 タビ此禁令ノ世ニ出ルヤ、諸藩亦之ニ倣フテ、和蘭内治ノ方ヲ禁ゼシヲ以テ、漢醫跋扈シ洋醫家特リ其箝制ヲ蒙ル、加之ナラズ、從來醫家著譯書ノ出版ハ、總テ天文方ノ許可ヲ受クル制ナリシモ、此年ニ至リ、更ニ醫學館多紀氏ノ創設ニ係ル、漢醫講習所ナリ、委員前編ニ出ス、ノ許ヲ受ケシム、是ニ於テ、洋醫家ノ弊ヲ受クルヤ益々大ナリ、嘉永三年紀元二千五百一十九年二月、林洞海曩ニ譯スル所ノワートル藥性